

「西表樹木かるた」を用いた森林環境教育の普及啓発について

九州森林管理局 西表森林生態系保全センター 専門官 ○後藤 直哉
生態系管理指導官 永山 博美

1 課題を取り上げた背景

西表島の貴重且つ豊かな自然（写真1）は、今年7月に世界自然遺産に登録されるなど国内外から注目されています。

当センターは、西表島小中学校の児童生徒に対し、西表に生育する「樹木」を中心とした「総合的な森林環境教育の推進」の普及啓発として、「西表樹木かるた」の取り組みを報告します。



写真1 仲間川マングローブ林

2 取組の経過

（1）森林環境教育の現状把握

西表島対象6校の教職員に対し、森林環境教育の現状と課題、当センターが配付している「西表島の植物誌」の活用状況等アンケートを実施しました。結果として、森林環境教育の現状では、回答者の半数以上が西表島に赴任1年目を占め、具体的な森林環境教育を進めるにあたり、樹木、森林に関する知識等の資料、データの必要性が明らかとなりました。

（2）新たな教材開発

アンケート結果を基に、教職員が教育現場で容易に森林環境教育を行える教材開発に取り組むこととしました。

教材開発の方針としては①手軽にどこでも行えること。②10分から15分の短時間で終わること。③日常的に目にすることが出来る身近な樹木を加えること。

これらを踏まえ、小学生低学年でも理解しやすいルール「かるた」を採用しました。名称は、西表島に生育する樹木を扱ったことから「西表島樹木かるた」にしました。

3 実行結果

かるたの試作品を6校に配付し、教職員および児童生徒に改良点も含め感想を求めました。

特徴的な意見としては、授業の導入について、試行的に理科、国語、学活などの時間に活用され使いやすい教材や身近にある植物ばかりで親しみが持てた等の意見がありました。

このようなことから、森林環境教育においては、「西表樹木かるた」（写真2）を使用することで、ゲーム感覚で児童に植物を理解させることが出来ると考えられます。



写真2 西表樹木かるた

4 考察

現在、今回得られた意見を基に、「樹木」以外の植物も加え、更に植物の特徴等の説明文を絵札の裏に記載した「改良版『西表植物かるた』」を作成し、小中学校に配布しています。

また、教職員の方には知識、情報の発信となり、国有林と教育機関との連携の構築など森林環境教育の総合的な底上げになっています。

今後は、更に「西表植物かるた」を用いて、西表島の植生、生態系をはじめ、歴史や文化などと関連付けした幅広い総合的な森林環境教育の実現に向けて取り組みを進めます。